

瀬戸の里デイサービスセンター事業概況

平成28年度の実績の低下により、平成27年に地域密着型のデイサービスに変更して単価を上げてても報酬は下がってしまいました。市内にデイサービスが増えたことで、競争を生き残る為に多くの事業所が知恵を絞っていますが、瀬戸の里デイサービスセンターはレスパイト型デイサービスとしての活動が主で新たな方向が示せず苦慮しています。模索する方法としては、

- ・お泊りデイサービスや最新のマシンを導入したりリハビリ等。
- ・法人の事業所同士の連携によるお得なサービスパック。デイの利用がショートスティや特養利用につながりやすい。
- ・居宅介護支援事業所との連携強化、若しくは自事業所支援専門員の増員

当センターは特養併設の事業所であり、同法人の居宅介護支援事業所が施設内に存在しています。それによりこれまでの利用者の殆どが同法人のケアマネからの紹介による新規となっています。ケアマネは自法人のデイに、自分が担当する利用者を8割まで紹介することができます。同一事業所の利用は、同じ施設内に利用者があることで利用中の様子を確認しやすい点や、担当する利用者の身体状況を入浴前後に直に確認することができるというメリットもあります。事後に口頭や書面で受ける報告より、実際に起きている現場を確認できるというのはケアマネの業務上大変助けになるからです。

先に当センターの利用者の殆どが同法人のケアマネで成り立ってきているといった報告を当センターの実績は単純に当法人のケアマネ数で上下しているということです。

ケアマネの退職等により、担当する40人近い利用者は他事業所のケアマネへと移り、少しずつ他のデイサービスへ変わっていきます。

リハビリやお泊り等、近くに充実した施設が多くある中、今新しいサービスを開始しても利用者増加は望めません。ケアマネの増員と安定がデイサービスやショートステイといった在宅サービスの実績を回復させる唯一の方法と考え赤字脱却に取り組みたい。

当該年度のセンター運営については、大きな事故・苦情もなく諸行事については、すべて事業計画を達成することができました。